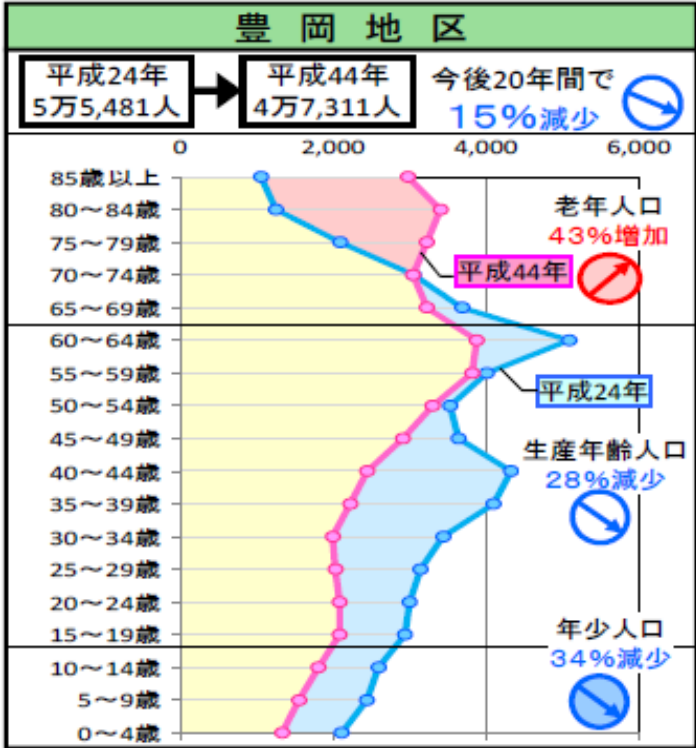


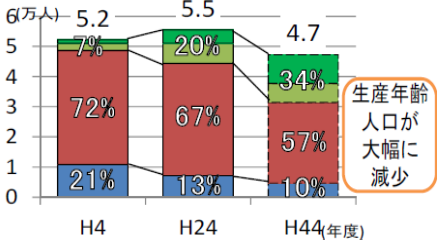
豊岡第2地区の概要

【人口動向】



〔人口動向の特徴〕

- 人口密度が高く、市民の約37%が居住している地区です。
- 平成4年と平成24年の比較で、生産年齢人口及び年少人口が大幅に減少しており、今後の推計でもさらに減少が予測されています。
- 老年人口は急激に増加しており、今後その傾向は続く予測され、高齢化はますます進みます。



	平成24年(比率)	平成44年(比率)
老年人口	11,128人(20%)	15,874人(34%)
生産年齢人口	37,215人(67%)	26,754人(57%)
年少人口	7,138人(13%)	4,683人(10%)

【公共施設の配置状況】

施設の種類		施設名
地域対応施設	公民館	東町公民館
	小学校	豊岡小学校、東町小学校
	中学校	豊岡中学校、東町中学校
	学童保育室	豊岡学童保育室、東町学童保育室
広域対応施設		市役所、市民会館・中央公民館、産業文化センター、児童センター、市民体育館、市民活動センター、防災センター、入間市駅南口自転車駐車場

〔施設配置の特徴〕

- 地区内の小中学校、学童保育室は2施設ずつあり、統合の対象となります。
- 広域対応施設としては、市役所、市民会館・中央公民館、産業文化センターなどの施設があります。

【公共施設の現状と課題】

- 東町公民館は建設してから30年を経過しており、今後、計画的な改修を行う必要があります。稼働率は32%となっており、部屋によっては利用可能コマ数が多く残っており、スペース過多の可能性が考えられます。
- 豊岡小学校は築34年、東町小学校は築37年となっており、老朽化していることから、今後、計画的な改修を行う必要があります。児童数については、ピーク時（豊岡：27学級・925人）（東町：23学級・837人）と比較して、5割程度になっており、なお減少傾向にあります。
- 豊岡中学校は築33年、東町中学校は築30年となっており、老朽化していることから、今後は、計画的な改修を行う必要があります。生徒数については、ピーク時（豊岡：27学級・1,101人）（東町：16学級・652人）と比較して、現在では、豊岡が4割、東町が7割程度となっており、なお減少傾向にあります。
- 学童保育室については、豊岡学童保育室は豊岡小学校の敷地内に設置されています。築年数が30年以上を経過し、老朽化が進んでいます。東町学童保育室は東町小学校校舎との複合施設となっています。

【地区の成り立ちと現状、将来の見通し】

〔地区全体〕

- 豊岡町のころから地区の行政、商業の中心地であった扇町屋地区に、多くの公共施設が設置されていました。昭和40年代以降は、人口増加に対応して東町地区や黒須・高倉地区にも公共施設が整備されてきました。
- 昭和末期から平成の初めにかけて入間市駅周辺の再開発が進み、入間市駅から豊岡、扇町屋地区にわたって中心市街地が形成されました。
- この地区には、市役所、市民会館、市民体育館、産業文化センターなど、広域的な公共施設が多数設置されています。
- 人口については、市内で最も密度が高い地区ですが、今後20年間では人口が約15%と大幅に減少する予測となっています。また、人口の年齢構成も年少人口、生産年齢人口が減少する一方、高齢者人口は43%と大幅に増加する見込みです。

〔豊岡第2地区〕

- 地形的には一部高低差がありますが、地区内の移動を制約するようなものではありません。この地区には、西武池袋線の入間市駅があり、この駅と武蔵藤沢駅を結ぶ路線バスが運行されていて、生活の利便性が高い地区です。各公共施設へは、入間市駅及び武蔵藤沢駅からの路線バスによるアクセスがあります。
- 入間市駅周辺や国道463号の沿道が商業地域となっていますが、駅周辺にも高層住宅が建ち並び、全般的には住居中心の地区です。
- 土地区画整理事業は終了しており、近年大規模な宅地開発は行われていないため、若年層の流入は少なく、高齢化が進んでいます。
- なお、入間市駅前に約7.8haの留保地があり、今後活用策を検討していくこととなっているため、この開発が進むと、公共施設の配置を考える上で大きな変動要素となる可能性があります。

【施設配置図】



【公民館の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
東町公民館	1040.79 ㎡	昭和 54 年	38 年	RC 造	市・個人

- ・老朽化が進んでおり、計画的な修繕対策の検討が必要となっています。
- ・東町公民館は、敷地の一部が借地となっており、その解消を検討する必要があります。
- ・周辺が住宅地となっており、敷地を拡張する余地は少なくなっています。

②利用状況

	利用件数	利用者数	稼働率	住民 1 人当たりの年間利用回数	トータルコスト
東町公民館	2,685 件	42,978 人	32%	5.6 回	4,101 万円

- ・利用者数については、全公民館の平均利用者数 39,793 人を上回っています。
- ・稼働率については、全公民館の平均稼働率 34%を下回っています。
- ・住民 1 人当たりの年間利用回数を見ると、全公民館の平均利用回数の 3.6 回を大きく上回っています。
- ・トータルコストについては、全公民館の平均額 4,069 万円を下回っています。

【小中学校の現状と課題】

①建物状況

	延床面積	建設年度	築年数	構造	土地所有
豊岡小学校	7,235.00 ㎡	昭和 58 年	34 年	RC 造	市
東町小学校	7,220.00 ㎡	昭和 55 年	37 年	RC 造	市
豊岡中学校	9,321.00 ㎡	昭和 59 年	33 年	RC 造	市
東町中学校	7,217.00 ㎡	昭和 62 年	30 年	RC 造	市

- ・全施設とも築 30 年超と老朽化が進んでおり、計画的な修繕対策の検討が必要になっています。
- ・小中学校とも地区内に 2 施設ずつであり、統廃合の対象となります。

②利用状況（各年 5 月 1 日現在）

	平成 24 年度 児童生徒数	平成 24 年度 学級数	平成 29 年度 児童生徒数	平成 29 年度 学級数	児童生徒数 減少率
豊岡小学校	566 人	21 学級	416 人	16 学級	26%
東町小学校	493 人	18 学級	462 人	17 学級	6%
豊岡中学校	461 人	16 学級	388 人	13 学級	15%
東町中学校	270 人	9 学級	227 人	7 学級	15%

- ・東町小学校については、5 年前と比較すると、児童生徒数の減少率は緩やかですが、豊岡小学校は 26%と大きな減少率となっています。
- ・豊岡中学校、東町中学校ともに、5 年前と比較すると、児童生徒数は 15%と大きく減少しています。

《豊岡第 2 地区の検討課題》

- ・地区センターについては、既存施設の活用を前提としますが、他の広域対応施設との複合化についても検討します。
- ・市街化が進んでいる地域であり、小中学校については、今後新たな学校用地となり得る広い土地はないため、既存施設を活用することを前提に、2 施設を統合します。
- ・学童保育室については、小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合します。
- ・当該地区は、小中学校が 2 校ずつあるため、最終形態を踏まえて再配置を検討する必要があります。なお、学校施設については、マネジメント全体の視点で土地や建物の活用や処分も検討する必要があります。
- ・小中学校の統廃合に対しては、地域コミュニティの地区区分と通学区が異なる場合があるため、地域の実情に合わせた見直しの協議が必要となります。